

情

報交流館カメラアを
中心として活動する
ボランティア・グ
ループ「カメラア・パルの会」

では、町や周辺の地域の中で、
親と子が触れ合う多彩な交流活
動を行っています。カメラア・
パルの会は昨年度から「子ども
夢基金」の助成を受け、地域の
自然や歴史、文化に触れる体験
を通して、ふるさとを愛する心、
自然との調和・共存する気持ち、
自ら考え創造する情仲を養うこ

「ののいちっ子」がすくすく 育って築く町の未来

情報交流館カメラアでさまざまな取り組みを

5万人市制を目前に控えた野々市町の平均年齢は39.21歳です(平成20年9月末現在・住民基本台帳人口ベース)。日本全体が少子高齢社会に突き進む中、石川県の19市町の中で最も若いと言われる、40歳を切る平均年齢を保っている理由は、野々市町に魅力を感じる若い世帯が多く移り住み、それに伴って子どもの数が増えているからです。子どもの増加を受けて、町では保育園の新築などを進めています。

野々市町情報交流館カメラアでも、マルチメディア都市・野々市の将来を担う「ののいちっ子」を育て、親と子が触れ合い、絆を強めるために、さまざまな事業を展開しています。その中から、柱となっている2つの事業を紹介します。

ん。自然の中で、普段
できない親と子
の会話が弾ん
だようでした。

風を存分
ました。
「親子で
乗り、子ど
な話をす
できてな
かった」
したある
の感想で
もは忙し

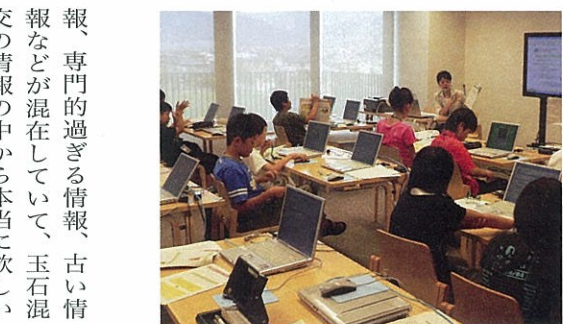
第2回
市のとれたて
もぎたて野菜で
キングー!



カメラリア・キッズ

子どもたちがITを駆使して科学技術を身近に

「カメラリア・キッズ」のこれまでの活動を紹介します。

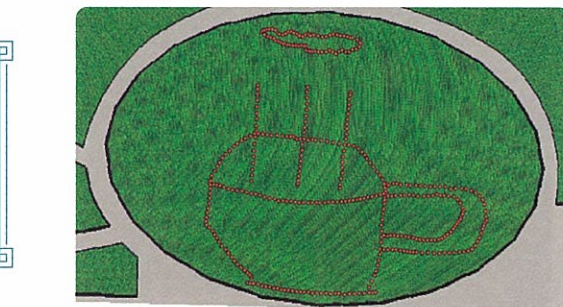


第2回
「地球にお絵かき & 野々市発バーチャル地球一周ツアーご招待」
7月26(土)・28日(月)

なお絵かき」大会では、他のチームにわかりにくい絵を考え、描き順を工夫するなど、みんなが話し合っ知恵を絞りました。

「野々市発バーチャル地球一周旅行」では、世界中の地形が航空写真で忠実に表示できるバーチャル地球儀ソフト「デジタルアース」を用いて、マチュピチュ遺跡やグランドキャニオンなど、世界中の名所を堪能しました。実際にこうした場所に旅行すると一人何十万円もかかります。

参加者はチームで協力しながら「文字は打てるけど、こんなこともパソコンでできるといふことにびっくりした」など、IT技術の進歩の可能性に驚いていました。



© つるおかけんじ

今後も科学する心を育てるプログラムを

カメラリア・キッズのカリキュラムを3回終えて、学校の枠を越えた友情も芽生えはじめています。今後の企画では、作品をつくる過程を楽しみながら、算数や理科の概念を理解し、論理的思考能力が身につくといわれている教育用フリーソフト「Squeak (スクイーク)」を用いた体験を予定しています。最近、問題になっている小中学生の科学離れを食い止めるためにも、科学と向き合う心を育み、創造することの楽しさを実感できるプログラムを企画していきます。

カメラリア・キッズ
中間報告

情

報交流館カメラリアにはキッズコーナーがあり、放課後や休日は子どもたちで賑わっています。中学生以下の子供たちは無料でパソコンが利用できます。インターネットを使いこなす力(リテラシー)を向上させ、高度情報化社会への対応力を身につけることを目的としています。

そうは言っても、現実にはほとんどの子どもたちがパソコンゲームに夢中です。学習などに使っている子どもが少なかったのが現状です。そこでカメラリアでは、本来の目的に近づけようと、体系だったカリキュラムを作り、今年6月から新しい取り組み「カメラリア・キッズ」を始めました。

「カメラリア・キッズ」が目指すのは、子どもたちが最新の科学技術に対する理解や興味を深め、情報通信技術(ICT)を正しく活用してアイデアを形にする力、自ら学び、考え、行動し、問題を解決する力を養い、身につけてもらうことです。公募によって小学校高学年から中学生までの15人が参加しています。

パ

パソコンやインターネットは私たちの生活を豊かにしてくれている大変便利な道具です。半面、使い方を一歩誤ると大変危険な道具になります。だからこそ、これを使いこなす能力(リテラシー)を身につけることが必要なのです。

初回のイベントでは、インターネットを使った検索コミュニケーションを通じて、「土星の輪の正体」を調べ、テーマに、情報の確かさの見極め、送り手の意図を読み取る練習などを行いました。インターネットの中には、嘘や噂の情報、全く関係のない商品に関する情

第1回
「パソコンのルールや上手な使い方」
6月28日(土)

報、専門的過ぎる情報、古い情報などが混在していて、玉石混交の情報の中から本当に欲しい情報を得ることに苦戦したカメラリア・キッズたち。

「インターネットは確かにかなり便利だけど、自分で判断し、いいことや悪いことを見分けることが大切だ」、「メールは早く相手に届くけど、相手の表情が届かないから、喧嘩や思い込みが多いことを知った」などの感想を挙げていました。

金

沢工業大学の鹿田正昭教授、徳永光晴教授、下川雄一准教授と工大生ら約30人の協力のもと、GPS(位置座標表示システム)を使って、楽しい野外教室を開きました。

町役場に隣接するあらみや公園を「キャンパス」にして、GPS受信機の軌跡を「グレヨン」に見立てたチーム対抗の「巨大

な絵かき」大会では、他のチームにわかりにくい絵を考え、描き順を工夫するなど、みんなが話し合っ知恵を絞りました。

「野々市発バーチャル地球一周旅行」では、世界中の地形が航空写真で忠実に表示できるバーチャル地球儀ソフト「デジタルアース」を用いて、マチュピチュ遺跡やグランドキャニオンなど、世界中の名所を堪能しました。実際にこうした場所に旅行すると一人何十万円もかかります。

参加者はチームで協力しながら「文字は打てるけど、こんなこともパソコンでできるといふことにびっくりした」など、IT技術の進歩の可能性に驚いていました。

第3回
「みらくる! ばんそうがでできるまで」
9月27日(土)

小

学館学年誌HPネットぼんどう屋」は子どもたちに大人気、月間200万アクセスあるネットゲームです。そのゲームクリエーター・つるおかけんじさんを招いて、拡大版カメラリア・キッズ「みらくる! ばんそうがでできるまで」を開催し、36人が参加しました。

ゲームクリエーターは、最近、若者たちの「なりたい職業」の一つです。催しでは、ゲームを楽しむだけでなく、ゲームクリエーターと直に触れ合うことにより、情報技術やメディア芸術

「マンガが出来る仕組みがよく分かりました」、「時間があれば、たくさんパラパラアニメを作ろうと思いました」などの感想が子どもたちから寄せられ、創作意欲が目覚めた様子でした。

参加者募集

子どもがすくすく町の未来

さまざまな取り組みを

野々市の平均年齢は39.21歳です(平成20年国勢調査)。日本全体が少子高齢社会の中で最も若いと言われる、40歳を越える野々市町に魅力を感じる若い世帯も数が増えているからです。子育て支援の新築などを進めています。

また、マルチメディア都市・野々市の未来を、親と子が触れ合い、絆を強めています。その中から、柱となっ



第4回

「のっティのって、ののいちの古代にタイムスリップ!!!」
12月21日(日)

野々市町は、縄文の御経塚遺跡、古代の末松廃寺など、歴史的な遺跡、史跡がたくさんあります。昨年に引き続き、今年は「のっティ」で北部ルートを巡り、親子で歴史を探索します。車窓から冬の景色を楽しみながら、野々市の歴史を知り、親子のぎずなを深めませんか?

ふるさと歴史館ではまがたまづくりにもチャレンジします!

日 時: 平成20年12月21日(日) 9:00 | フォルテ集合
16:00 | フォルテ解散予定

行き先: 野々市ふるさと歴史館
野々市本町界隈(布市神社・照台寺・郷土資料館など)

定 員: 親子20人(小学生以上)

会 費: 600円



親子で自然と触れ合い、 歴史や文化を学ぶ カメラア親子体験塾

第1回 「手取湖で親子カヌー体験& 大嵐山ブナ林トレッキング」

7月27日(日)



私 たちが日ごろ恩恵にあずかる手取川七ヶ用水。その源である手取湖でカヌー体験しました。水と森の機能や大切さを親子で学ぶことが狙いで町内から親子25人が参加しました。カヌーの指導は、野々市在住で、カヤック競技世界ランキング保持者の石原亨さんらの協力で行われました。ほとんどがカヌー初体験にもかかわらず、見事に乗りこなす、手取湖の景色と

私

野

野々市町中林にある農園「福来園」で、地産地消と農業の豊かさを知ることがテーマに、野菜の収穫体験、新米のかまど炊き体験を行いました。講師は「福来園」を営む福田康浩さん。町内の親子26人が参加しました。参加者は、実際に収穫体験しながら、肥料の違いによって育て方の労力や、味に大きな差があること、さらには、環境への影響が異なることを学びまし

白

山市の旧尾口村で、遊歩道のブナ林を歩き、新そば粉でそば打ち、苗木植え体験のあと、俳句教室を行いました。そば打ち体験の講師には水原保さん(ほつと石川観光ボランティアガイド連絡協会長)、俳句教室の講師には松本詩葉子さん(句会「雪の会」代表)を迎え、サポートに金沢工業大

白

第2回 「野々市のとれたて新米ともぎたて野菜でクッキングー!」

9月21日(日)



情 報交流館カメラアを中心として活動するボランティア・グループ「カメラア・パルの会」では、町や周辺の地域の中で、親子が触れ合う多彩な交流活動を行っています。カメラア・パルの会は昨年度から「子ども夢基金」の助成を受け、地域の自然や歴史、文化に触れる体験を通して、ふるさとを愛する心、自然との調和・共存する気持ち、自ら考え創造する精神を養うことを目的とした「カメラア親子体験塾」を開催しています。以下、これまでの活動内容です。

第3回 「新そばと紅葉の森で秋を満喫、そこで一句」

10月26日(日)



風を存分に楽しめました。「親子でカヌーに乗り、子どもと色々な話をすることができて本当によかった」と、参加したあるお父さんの感想です。いつも忙しいお父さん、自然の中で、普段なかなかできない親子の会話の弾んだようでした。

「ののいちっ子」 育って築く

情報交流館カメラアで

5万人市制を目前に控えた野々市。20年9月末現在・住民基本台帳人口に突き進む中、石川県の19市町村の平均年齢を保っている理由は、多く移り住み、それに伴って子どもの増加を受けて、町では保育園野々市町情報交流館カメラアで将来を担う「ののいちっ子」を育てるために、さまざまな事業を展開している2つの事業を紹介します。

た。「アスパラでこんなふうにできるとるんやあー!」「オクラに細かい産毛がはえとるー!」など、農園には子どもたちの感動の音が響きましました。また、「いただきます」はいつもなげなく言っているけど、本来「生きとし生けるもの」の命をいただくという意味があることを福田さんから教わり、その意味を重く噛み締めながら、収穫したばかりの野菜や新米の味を親子で楽しみました。



学「Circuitプロジェクト」の学生も加わり、町内の親子19人が参加しました。紅葉がはじまったブナ林で、木の実やキノコの話や聞ながら秋の気配を感じた後は、グループごとにそばをこね、新そばの味に舌鼓をうちました。

俳句教室では、17文字で季節を詠む世界で一番短い日本の伝統文芸を通して、より深く秋を感じ、表現する楽しさを実感できました。

いろんな分野で優れた 「のの市人」がいる!

カメラア親子体験塾 中間報告

3回のカメラア親子体験塾を終え、「カヤックの世界ランキング選手や、優れた農家、植物の先生など、この野々市町に素晴らしい方がいることを知り驚きました。また、いろいろと教えてほしい」「子どもに自然や多くの人々と触れ合っほしくて参加し、楽しい時間を過ごせました」という感想や、主催するカメラア・パルの会メンバーへの労いの言葉が寄せられました。さまざまな体験活動を通して、参加者親子、講師、地域学生、カメラア・パルの会メンバーなどなど…新たな交流が生まれています。



えふえむ・エヌ・ワンは野々市町5万人市制を応援しています



13年間

FM-N1開局記念

音楽を大切に。

12月27日(土)に特番

著作権とアーティストの関係は…

「歌は誰のもの？」

午前 11:00 ~ 午後 1:00 (再) 12月29日 正午 ~ 谷川昌則

「ジュリー! 色つきの男でいてくれよ」

午後 4:00 ~ 6:00 (再) 1月3日 午後1:00 ~ 中村圭佑

「ブロークン・タイムマシン 邦楽リクエスト・ランキング」

午前 9:00 ~ 10:00 (再) 12月30日 午前10:00 ~ ロイ・キヨタ、宇野慶子

「ブロークン・タイムマシン 洋楽リクエスト・ランキング」

午後 1:00 ~ 2:00 (再) 12月30日 午前11:00 ~ ロイ・キヨタ、宇野慶子

見聞します。歌は多くの人と会社を経て、リスナーやCDを購入した人に届きます。

開局特番の一つはズバリ「歌は誰のもの?」と題して、最近のニュースや話題に触れながら、作詞・作曲家の思い、著作権問題などを考えたいと思います。

FM-N1は12月27日に、開局13周年を迎えます。開局以来、番組では、作詞家や作曲家に敬意を表して、楽曲は最初から最後まで丁寧にかけることを心がけてきました。昨今では、著作権に関するニュースをよく

大晦日特番12月31日

飛田一男さん追悼番組「夕焼け祭り2008」
午前10:00 ~ 午後1:10頃 最後のライブ
午後1:10頃 ~ 5:00 多くの仲間と囲まれて

「学生ラジオ・ちょっと聴きまっし」
午後10:00 ~ 元旦午前0:30
金沢工大ウエーブ・プロジェクト